

I 学校自己評価の基本方針

(1) 目的

医療福祉人材を養成する専修学校として、教育の質の向上と学校運営の改善を目的とする。

(2) 評価項目及び評価手順等

私立専門学校評価機構の専門学校等評価基準書に規定する評価項目に本学独自の評価項目を加え、各項目につき教職員が10段階評価を行い、平均値を学校自己評価報告書(以下「報告書」という。)に記載する。記述項目は学校評価委員会(以下「委員会」という。)が語句等を整理する。

(3) 評価の実施

毎年3月に教職員が評価し、結果を委員会が取りまとめる。

(4) 評価結果

委員会は評価結果を踏まえ、教育活動の質の向上及び学校運営の改善に関する提言を取りまとめ、理事長に報告するものとする。

(5) 公表等

委員長は、評価結果を学校法人理事会・評議員会に報告し、承認を受けなければならない。また、理事会等で承認を受けた報告書をホームページ上で公開するものとする。

II 評価結果

教職員が10段階の自己評価を行った大項目(I~XI)ごとの平均値が次表である。

※評価基準・・・非常に適切(該当)で評価できる・・・	10、9、8
まずまず適切(該当)で評価できる・・・	7、6
やや不適切(非該当)で評価できない・・・	5、4
非常に不適切(非該当)で全く評価できない・・・	3、2
論外・・・	1
	平均値 5.5

※集計方法

- ・小項目 教職員の10段階評価の評価値の合計を回答数で除して算出(少数第2位を四捨五入)
- ・大項目 小項目の平均値で算出(少数第2位を四捨五入)

※記述項目

■：課題 →：解決方法の提案 ☆：評価できる点

(1) 大項目評価結果

項目	全体	旭川	吉井川
I 教育理念・目的	7.7 (7.7)	7.8 (7.8)	7.4 (7.4)
II 学校運営	7.1 (7.2)	7.1 (7.4)	7.0 (6.5)
III 教育活動	7.6 (7.5)	7.7 (7.7)	7.5 (7.1)
IV 教育成果	7.8 (7.6)	7.8 (7.6)	7.7 (7.7)
V 学生支援	7.7 (7.7)	7.7 (7.7)	7.6 (7.7)
VI 教育環境	■6.7 (6.7)	■6.7 (6.6)	7.0 (7.0)
VII 学生募集	■6.9 (7.6)	7.2 (7.9)	■5.6 (7.0)
VIII 財務	■5.9 (6.3)	■5.7 (6.3)	■6.4 (6.1)
IX 法令遵守	7.8 (7.8)	○8.0 (7.8)	7.1 (7.6)
X 社会貢献	○8.1 (8.1)	○8.1 (8.1)	○8.1 (8.3)
XI 旭川荘との連携	7.9 (7.9)	7.8 (8.0)	7.9 (7.9)

○：高評価(8.0以上) ■：低評価(5~6ポイント台) ()は前年度評価

(2) 小項目評価結果

I 教育理念・目的	全体	旭川	吉井川
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	8.5	8.6	8.0
学校における職業教育その他の教育指導の特色が明確になっているか	8.4	8.5	8.0
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	6.9	7.0	6.4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が広く周知されているか。	6.8	6.8	6.9
各学科の教育目標、育成人材像は、関係業界のニーズに合致しているか	8.0	8.1	7.6

II 学校運営	全体	旭川	吉井川
目的等に沿った運営方針が策定されているか	7.0	6.9	7.0
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	6.9	6.9	7.1
運営組織や意思決定機能は規則等で明確化され、有効に機能しているか	6.8	6.8	6.8
人事、給与に関する規程等は整備されているか	7.3	7.3	7.3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	7.1	7.1	7.1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	7.0	7.1	7.0
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	7.8	7.9	7.3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	6.5	6.5	6.7

III 教育活動	全体	旭川	吉井川
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	8.0	8.1	7.4
教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた教育目標や学習時間の確保	7.9	7.9	7.7
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	8.0	8.1	7.7
キャリア教育・実践教育の視点に立つカリキュラムや教育方法の工夫・開発	7.8	7.9	7.6
業界団体・関係施設等との連携によるカリキュラムの作成・見直しの実施	7.6	7.6	7.4
関連分野における実践的職業教育（座学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	7.8	7.8	7.7
授業評価の実施・評価体制はあるか	7.1	7.1	6.9
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	7.2	7.2	7.2
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	8.3	8.4	7.7
資格取得等に関する指導体制やカリキュラムの体系的な位置づけはあるか	8.2	8.4	7.8
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる教員を確保しているか	7.8	7.9	7.7
関連業界と連携し、優れた教員確保等のマネジメントが行われているか	7.2	7.2	7.4
先端的知識・技能等の修得や教員の資質向上のための取組が行われているか	7.1	7.0	7.3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	6.6	6.5	7.1

IV 教育成果	全体	旭川	吉井川
就職率の向上が図られているか	8.4	8.6	8.0
資格取得率の向上が図られているか	8.4	8.5	8.0
退学率の低減が図られているか	7.4	7.3	7.8
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	7.4	7.4	7.3
卒業後のキャリア形成効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	7.3	7.3	7.4

V 学生支援	全体	旭川	吉井川
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	8.3	8.4	8.0
学生相談に関する体制は整備されているか	8.4	8.4	8.2
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	7.8	7.8	7.7
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	7.8	7.8	7.7
課外活動に対する支援体制は整備されているか	7.1	7.1	7.4
学生の生活環境への支援は行われているか	7.4	7.3	7.6
保護者と適切に連携しているか	7.8	7.8	7.7
卒業生への支援体制はあるか	7.5	7.6	7.1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	7.4	7.4	7.4
高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組を行っているか	7.1	7.0	7.6

VI教育環境	全体	旭川	吉井川
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	6.5	6.5	6.7
実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な体制整備	7.2	7.2	7.2
防災体制は整備されているか	6.5	6.4	7.1

VII学生募集	全体	旭川	吉井川
学生募集活動は、適正に行われているか	6.7	7.2	4.9
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	6.8	7.2	5.2
学納金は妥当なものとなっているか	7.1	7.2	6.6

VIII財務	全体	旭川	吉井川
中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3.8	3.1	5.7
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5.3	4.9	6.3
財務について会計監査が適正に行われているか	7.3	7.4	6.7
財務情報公開の体制整備はできているか	7.2	7.2	7.0

X社会貢献	全体	旭川	吉井川
57 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	8.2	8.2	8.2
58 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	8.5	8.6	8.0
59 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	7.5	7.4	8.0

IX法令遵守	全体	旭川	吉井川
法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	8.1	8.3	7.4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	7.9	8.1	7.0
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	6.8	7.0	6.1
自己評価結果を公開しているか	8.3	8.4	7.9

XI旭川荘との連携	全体	旭川	吉井川
60 行事等においてお互い協力できたか	8.1	8.1	8.0
61 旭川荘と連携した教育活動ができたか	8.1	8.1	8.0
62 人事交流を行っているか	7.4	7.4	7.4
63 旭川荘への就職希望者はいるか	7.8	7.7	8.2

III 考察

(1) 全体的な評価傾向

自己評価全体を見ると、教育内容・学生支援・教職員の学生対応姿勢に関する項目は、両キャンパスとも概ね高い評価（8～10ポイント台）が多く、本校が学生一人ひとりに丁寧に向き合い、実践的な教育を行っていることが確認できる。特に「学生への真摯な対応」「資格取得・就職に向けた支援」「ボランティア活動を通じた人間的成長」に関する評価は安定して高く、本校の教育の強みといえる。

一方で、学生募集、財務、組織運営、防災体制、情報共有といった学校運営の基盤部分では評価が伸び悩んでおり、構造的な課題が継続していることが明らかとなった。

(2) 評価が高い分野の考察（強み）

ア 教育活動・学生支援

多くの回答で、「学生に真摯に向き合っている」、「個別対応ができている」、「ボランティアや地域活動を通して成長が見られる」といった肯定的意見が見られ、教職員の献身的な関わりが学生の成長につながっていることがうかがえる。

また、学科閉科等の厳しい状況下においても、教職員が最後まで学生を支えようとする姿勢が強く評価されており、本校の教育文化として大切にすべき点である。

イ 地域連携・社会貢献

公開講座、地域活動、ボランティア等に関する評価は比較的高く、特に学科単位では継続的な地域貢献が実践されている。これは本校の特色の一つであり、今後は教育の成果として積極的に外部発信していくことが求められる。

(3) 課題が顕在化している分野

ア 学生募集・広報

自由記述では、「専門学校の魅力が十分に伝わっていない」、「言葉選びや伝え方が今の学生に合っていない」、「入試広報の体制・人員の見直しが必要」といった意見が多数見られた。少子化・大学志向の高まりという外部要因はあるものの、教育の強みを学生・保護者・高校に十分届けきれていない点が、内部からも課題として認識されている。

イ 財務・将来戦略

財務に関する評価は全体的に低く、「学生確保が財務の不安定さに直結している」、「積立金の取崩しへの不安」、「中長期的な学校運営ビジョンが見えにくい」といった声が多く見られた。

「目の前の学生募集に追われ、将来設計が見えにくい」という指摘は複数あり、中長期ビジョンと戦略の明確化が喫緊の課題である。

ウ 組織運営・情報共有

「意思決定の方向性が伝わりにくい」、「紙ベースの情報共有が多く非効率」、「教職員の意見を出し合う仕組みが弱い」といった意見があり、組織としての風通しや情報伝達方法に改善の余地がある。

エ 防災・危機管理

両キャンパス共通して、「防災訓練が十分に実施できていない」、「備蓄品・マニュアルが不十分」との指摘があり、学生の安全確保の観点からも早急な整備が必要な分野である。

(4) キャンパス別の特徴

ア 旭川キャンパス

教育活動や学生対応への評価は高い一方、学生募集・財務・組織運営に関する危機感が強く表れている。閉科に関する意見も含め、教職員の問題意識は高い。

イ 吉井川キャンパス

全体的に評価は安定しているが、「学校自己評価を実施しても変化が感じられない」という声があり、評価結果を改善につなげる実行力が課題として示唆される。

(5) 今後に向けた総括

本自己評価から、学院は「教育の質と教職員の姿勢」という大きな強みを持ちながら、それを支える経営・組織・戦略面が追いついていない段階にあると考えられる。今後は、「教育の強みを軸とした学生募集・広報戦略の再構築」、「中長期的視点に立った学校運営ビジョンの明確化」、「防災・情報共有・業務効率化など基盤整備の着実な実行」、「自己評価結果を「検討」で終わらせず、改善に結びつける仕組みづくり」を通じて、持続可能で信頼される学校運営を目指していく必要がある。